

渋谷の坂道

渋谷の街を歩いていると、道玄坂や宮益坂など、いくつかの坂道に出会えます。

渋谷の坂道が登場する本や、
どんな坂道があるのかを
知ることができる本を紹介します。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、
おすすめ本の情報を発信して
いく、渋谷区立図書館が発行
する定期刊行物です。

『椿山課長の七日間』

浅田 次郎／著 朝日新聞社(朝日文庫) 2005

46歳で突然死し、七日間だけ現世に戻ることになった椿山課長。

生前働いていたデパートの屋上から、渋谷の街を眺めながら過去の出来事を回想する場面で、道玄坂や宮益坂が登場する。



『凹凸を楽しむ』

『東京坂道図鑑』

松本 泰生／著 洋泉社 2017

東京23区にある142の坂道について、イラストと写真、凹凸のわかる地図で教えられる。

宮益坂・道玄坂・スペイン坂についての記載がある。



渋谷読書人 2021年6月・7月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日 2021年6月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



「梅雨を楽しもう」

雨の降り続く、湿度の高い季節。

そんな梅雨の時期を楽しく過ごせるような本を紹介します。

『天気と気象について』

わかっていること知らないこと』

筆保 弘徳／編著 芳村 圭／編著 稲津 将[他]／著
ベレ出版 2013

集中豪雨や台風といった大気現象は、私たちの生活に大きな影響を与える。

これらの現象は、現代の気象学でどこまで予測することが可能なのか。

気象学の「いま」と「これから」について、研究者たちが解説する。



『雨の日は森へ』

盛口 満／著 八坂書房 2013

暗い・怖い・不快な森というイメージのある照葉樹林の中へ入ってみると、森の意外な一面を知ることができる。

屋久島の発光キノコ、冬虫夏草など、森に生息する変な生き物を紹介する。



『天気の名前』

森田 正光／監修 世界文化社 2013

気象予報士の森田正光さんとその仲間たちが、日本中にある天気の名前を個人の体験や知識を交えて解説する。



『虹色天気雨』

大島 真寿美／著 小学館 2006

ある日突然、幼馴染の奈津の夫が失踪した。

市子は、夫の捜索に奔走する奈津の一人娘・美月を預かることになる。

読んだら友達に会いたくなる、女性同士の友情を描いた作品。

『いま、会いにゆきます』

市川 拓司／著 小学館 2003

妻に先立たれ、息子と二人暮らしの巧。

亡くなる前、妻の滯は「雨の季節になったら戻ってくる」と言っていた。そしてある日、本当に記憶を失くした彼女が現れた。

一途で深い愛の物語。



『どこかでベートーヴェン』

中山 七里／著 宝島社 2016

豪雨によって孤立した校舎に取り残された音楽科クラス的面々。そんな中、クラスの問題児が何者かに殺された。

17歳の岬は、自分かけられた疑いを晴らすため独自に調査を開始する。



『おうちで作れる』

老舗のカフェスイーツ』

山村 光春／監修 世界文化社 2015

老舗カフェの看板メニューを、丁寧な解説で紹介する。

外に出かけられない日は、有名店の人気スイーツをご家庭で作ってカフェ気分を味わってみてはいかがでしょうか。

気になる新着コーナー

『おばあちゃん、』

青い自転車で世界に出逢う』

ガブリ・ローデナス／著 宮崎 真紀／訳 小学館 2021

メキシコで暮らす90歳のマルは、ある日、遥か昔に別れた一人息子がもうこの世にいないこと、そして自分に孫息子がいることを知る。

マルは青いおんぼろ自転車で孫を探す旅に出る。



『つながる短歌100』

あんの 秀子／著 朝日新聞出版 2021

「万葉集」から現代までの歌を百首選び、2～3首ずつを比べて繋げ、歌人・時代背景・歌の歴史を紹介する。

